

名古屋大学教育学部 2008年度 後期

教育方法学講義I

- 教育方法概論 -

第13回 講義資料 W

担当 柴田好章 (教育方法学・准教授)

専門家としての教師の成長とは？(2)

— 育ち合う教師と子ども —

名大教育方法研究室と東海市富木島中学校区の実践から

- ◆目的：授業研究会の活性化
 - ◆うつむかない授業研究会
 - ◆大学・教委・学校との連携
- ◆方法：ワークショップ型の参加型授業研究会
 - ◆全員参加型、問題意識の共有、協同的問題解決
 - ◆役割分担、抽出児童の綿密な観察、事実に根ざした議論
- ◆成果：立場の違いを乗り越えた研究体制の確立
 - ◆学年・教科をこえた協同
 - ◆教科の視点と研究課題の視点の両立
- ◆課題：個人の力量から学校としての知見の蓄積へ
 - ◆授業者以外の力量形成と、学校としての教育力の向上

専門職の集団として求められるものは？

- ◆安易な同調（あるいは安易な斬り捨て）ではなく
信頼・共感を基盤とした 対話・対立・葛藤
- ◆信頼される専門職とは？
 - ◆専門職としての「ぶれ」のなさ ===> 共通項の共通理解（専門職ならではの安定性）
 - ◆専門職としての高度な判断 ===> 特化した専門性や個性（得意分野）

授業研究の目的と今日的課題（3+3）

- ◆時代をこえた授業研究の目的
 - ◆研究することによって、教師としての力量を高める
 - ◆授業の改善点や、改善の方策を明らかにし、よりよい授業の実現に近づける
 - ◆明日の実践の拠りどころとなる理論を構築する
- ◆特に、今日的な状況において大切にしたいこと
 - ◆学び合う組織としての学校（みんなが学ぶコミュニティ）
 - ◆学校を基盤とする経営・カリキュラム開発・職能開発（校内の研究の蓄積）
 - ◆地域・社会からの信頼へとつなげる（目標・評価・発信）

協同的問題解決としての参加型授業研究会 ワークショップの方法と手順

教育実践問題支援プロジェクトでは、研究授業の公開と事後検討会を柱とする授業研究会を、協同的な問題解決の場と位置づけています。児童・生徒がどのように学んでいるかを参加者が観察・記録し、その事実をもとに討議することを通して、教育実践上の問題の発見・共有・解決を図っていきます。学校で行われてきた授業研究会に、大学で共同研究として行われている授業分析を取り入れた、ワークショップです。

事前準備

- 研究授業における問題意識の明確化
 - 児童・生徒への願い
 - 授業者として実現したいこと
 - 手だてや働きかけ
- 単元の構想、授業案、座席表の作成
- 抽出児童・生徒（3名程度）の決定
- 司会、観察者の役割分担の決定
- 授業準備（教材、学習環境等）
- 事前ミーティング

研究授業

- 授業の観察・記録の分担
 - 速記録者（2名）
 - … 時刻、発言者、発言・行動の概略を時系列にそって記述
 - 抽出児童・生徒観察者（児童・生徒1名につき1～2名）
 - … 抽出児童・生徒の様子を、時刻とともに記述
 - 全体観察者
 - … 授業者のねらい・意図、抽出児童・生徒を考慮しながら、「おっ？」と気持ち動いたところを、時刻とともに記述
 - 音声記録、映像記録、写真

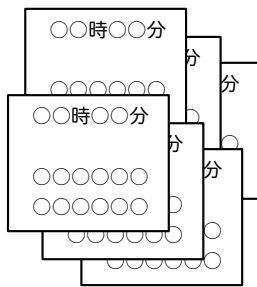
事後検討会

時刻	発言者	発言の概要
○○○	○○	○○○○○ ○○○○○
○○○	○○	○○○○○ ○○○○○

速記録

事後検討会では、速記録に、各参加者の気づきを、付箋紙で付け加えていくことによって、総合記録を作り上げていきます。
この作業を通じて、参加者どうして、観察・記録した事実や気づきを共有していきます。

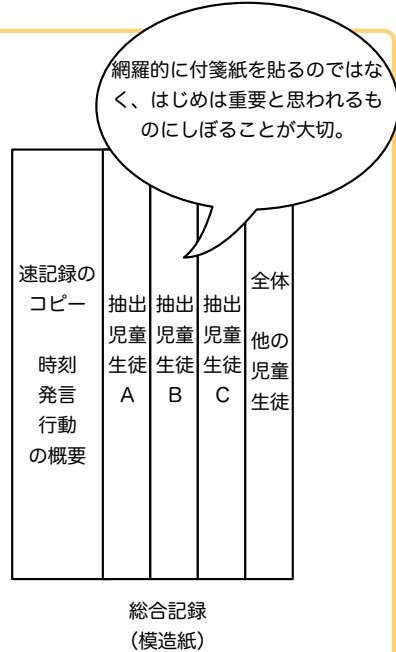
協同での総合記録づくり



付箋紙

観察者は、観察した抽出児童・生徒の様子などを、時刻とともに付箋紙に記述します。観察中に直接記入しても、観察後に記録を整理しながら記入しても、どちらでもかまいません。

速記録を模造紙大に拡大します。
抽出児童・生徒ごとに、付箋紙を貼る欄を、あらかじめもうけておきます。
その他の児童・生徒や全体の様子についての付箋紙を貼る欄も、もうけておきます。



総合記録
(模造紙)

模造紙は、黒板・壁などに、参加者によく見えるように貼ります。書き込み、付箋紙の貼付けができるように、スペースをとっておきます。通常、1授業で、数枚から10枚の模造紙になります。

